

第 31 回腎癌研究会プログラム

日時:平成 18 年 4 月 15 日(土) 16:30 ~ 19:30

場所:福岡国際会議場 5 階 501

第 94 回日本泌尿器科学会総会 第 10 会場

主題:「腎癌骨転移の診断と治療」

開会挨拶

(16:30 ~ 16:36)

一般演題 Session 1

(16:36 ~ 17:24)

座長:木村 剛(日本医科大学 泌尿器科)

1. 腎癌術後に発症した単発性骨転移に対し椎体置換術を施行した 3 例
枝村 康平(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学)
2. CDDP 動注併用放射線治療が有効であった腎細胞癌骨転移の 1 例
中本 貴久(広島市立安佐市民病院 泌尿器科)
3. 骨転移を有する進行腎癌症例に対し樹状細胞療法を行った 2 例
原野 正彦(九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野)
4. 腎細胞癌の骨転移巣における RANKL 発現の意義
大家 基嗣(慶應義塾大学 泌尿器科)

一般演題 Session 2

(17:24 ~ 18:00)

座長:野々村 祝夫(大阪大学医学部 泌尿器科)

5. 腎癌骨転移症例の臨床的検討
三神 一哉(京都府立与謝の海病院 泌尿器科)
6. 腎癌骨転移例に対する治療方針
豊田 裕(北海道大学大学院医学研究科 腎泌尿器外科)
7. 腎癌骨転移症例の臨床的検討
麦谷 莊一(浜松医科大学 泌尿器科)

特別講演 『サテライトセミナー』

「Practical Aspect of Molecular Targeting Therapy for RCC
- Report from Western Countries」

(18:30 ~ 19:27)

司会: 内藤 誠二 (九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野)

・The position of molecular targeting agents treatment in RCC

Dr. Ronald M. Bukowski

(Director Experimental Therapeutics CCF Taussig Cancer Center Professor of Medicine CCF
Lerner College of Medicine of CWRU, USA)

・Multikinase inhibitors in the treatment of RCC: A new era

Dr. Bernard Escudier

(Institut Gustave Roussy, Villejuif, France)

・Discussion

閉会挨拶

(19:27 ~ 19:30)